

風土記の丘の花だより³⁰¹

今、そしてこれから見られる植物(2025年12月20日)

すこし前、久しぶりに雨が降りました。野山の木々も少しは喜んだことでしょう。風土記の丘は、イチョウもカエデも散り果てて、寒々としてきました。ただ、ツワブキだけがまだ頑張って咲いていて、寒風の中で、まっ黄色の花がより鮮やかに見えます。



こんなのも冬の風情です。これはカマツカの紅葉です。この木はバラ科の植物で、初夏には真っ白な花を咲かせていましたが、控えめな花なので、皆さんの印象に残っていないかもしれませんね。イチョウのようなまっ黄色でもなく、カエデのような赤でもなく、その中間的ななんとも言えない、落ち着いた色合いの紅葉です。ところどころに真っ赤な実が付いています。それもアクセントで可愛いですね。カマツカは漢字書けば「鎌柄」かつて鎌の柄に使われていたので、この名が付いたと言われています。



花の少ないこの季節、前はキノコ、今回はシダでお許しいただくことにします。このつる草はシダの仲間でカニクサと言います。他の草木や垣根などに巻き付いて伸びる様子を、カニが這い回る様子に例えた名前と言われています。左と右で葉の様子が違いますが、左が普通の葉で、右が胞子を付ける葉です。シダは花を咲かせませんから、胞子を飛ばして仲間を増やします。多くの方がイメージするシダの姿とは違うシダではないでしょうか。



あと少しでお正月です。これはしめ縄に付いているシダ、ウラジロです。裏が白いので「裏白」、何のヒネリもないネーミングですね。裏が白くて潔白、葉が一对で付いているので夫婦円満、新芽が出てどんどん育つので子孫繁栄など、色々良いとこづくめのウラジロです。また、山で、この葉を裏返しにして、谷に向かって飛ばすと、グライダーのように遠くまで滑空します。そんな遊びをした思い出はありませんか。もはや、古い古い話ですかね。



ビワの花が咲き始めました。果物のビワは夏の初めのイメージがありますが、花はこんなに寒い時期に咲きます。意外に思われるかも知れませんが、ビワはバラ科の植物です。言われてみれば、花はウメやサクラに似ていますね。こんな時期の開花は受粉に不利だと思いますが、どうしてそんな選択をしたのでしょうか。甘い香りは、数少ない虫や野鳥を集めるための戦略なのでしょう。園路沿いでも散見されますので、花が咲いていたら立ち止まってください。そして手に取れたら、香りを嗅いでみてください。 松下